

VST このVST(i)プラグインが熱い! LOVERS

無料サンプルPDF

1-1 VST プラグインとは

VST とは何か、VST プラグイン導入のメリット

本書を手にとられた方は、おそらくタイトルに惹かれて手にとられた方が多いかと思いますが、『ボカロピギナーズ！ボカロで DTM 入門』から入ってきた方は、そちらのほうでは VST に関する説明を一切行っておらず、楽器やエフェクターの種類とその紹介を中心に解説しておりましたので、あまりこの言葉に馴染みのない方もいらっしゃるかもしれません。

そこで、具体的なプラグインのご紹介に入る前に、まずは VST とは何か、VST プラグインとは何かという基礎知識について説明したいと思います。

VST とは、「Virtual Studio Technology」の略で、DAW（楽曲制作ソフト）と外部のソフトウェアとの連携を行うためのプログラム規格のひとつです。読みは「ブイエスティー」です。

開発したのは「Cubase」という DAW を制作した Steinberg というドイツの会社ですが、現在では「SONAR」や「Studio One」、「Ability」など、Cubase 以外の多くの一般的な DAW でも対応が進んでおり、同様の規格の中では最も普及しているものです。

「VST 規格に対応した外部のソフトウェア」が、一般的に「VST プラグイン」と呼ばれているものであり、本書で取り上げるものとなります。例えば、クリプトン社の VOCALOID3or4 製品を持っている方にはお馴染みであろう「Piapro Studio」も、VST プラグインの一種となります。

ちなみに先に書いたとおり「VST」というのは規格の名前ですから、「使える VST プラグイン」のことを「使える VST」と略すのは、「USB メモリ」を「USB」と略すのと同じようなことではあるのですが、実際にはプラグイン自身のことも「VST」と呼ぶのは DTM を趣味とする者の間ではよくあることです。

近年の一般的な DAW には、最初からある程度の種類の楽器やエフェクターが付属しており、そのままでもある程度のクオリティの楽曲を仕上げることができます。実際、DAW 付属の楽器やエフェクターのみを使って曲を制作し、活動をしている方も大勢いることでしょう。

その中でもわざわざ外部から VST プラグインを導入するメリットというのは、やはり導入によりクオリティや利便性を向上できる点にあります。付属音源に無かった新しい音を得るために楽器を買い足すことで、楽曲ジャンルの幅が広がったり、制作にあたっての利便性を向上してストレスを軽減できた、という経験は数多くあります。

例えば、ピアノやストリングスなど、対象をひとつのジャンルの楽器に絞ってリアルさを追求した専門の音源。あるいは、MIDI キーボードを一音押さえるだけで、コードを鳴らせるギター音源。あの曲で見たようなボーカルの加工をできるエフェクターなどなど…。メーカー各社が工夫を凝らし、日々新しいプラグインをリリースしています。

筆者はボカロ P ですので VOCALOID 曲をよく作りますが、VST プラグインは、RPG で言うなら、その VOCALOID キャラクターの装備品とも言える存在であると感じています。歌声がよりはっきり届きやすくなったり、周りを彩るオケをより強化できたり、そんな大事な相棒である

かのような感覚です。

また、もし DAW を乗り換えても、その乗り換えた DAW が VST 規格に対応していれば、使い慣れた楽器やエフェクターをそのまま持ち込めるというのも、VST プラグインが外部ソフトウェアだからこそそのメリットです。

なお、VST 規格については、規格に対応したソフトウェアを制作するための開発ツールを Steinberg 社が公開しており、(プログラミングの知識が必要ですが、極端に言えば) 誰でも VST プラグインを作ることができます。このおかげで、個人や小さなレーベルなどが自作の VST プラグインを配布でき、その中にはネット上で無料配布が行われているものも数多く存在します。無料でも制作者の間で評価の高いプラグインもあり、本書でもそういった気軽に試せる無料配布のものを数多く紹介しています。

参考 URL

VST、AU、AAX…今さら聞けない「プラグインって何?」: 藤本健の「DTM ステーション」
<http://www.dtmstation.com/archives/51974574.html>

VST に対応している DAW を導入する

多くの DAW では VST プラグインへの対応がなされていますが、機種によっては対応していないものもありますので、購入検討時に DAW の公式サイト の仕様に関するページを見て、「VST 対応」などの文字が書かれているかどうかを確認しましょう。

以下に、搭載されていないケース・DAW について触れておきます。

・DAW の下位機種

例えば DAW 「Studio One」の無料配布バージョン「Studio One Prime」は VST 規格非対応です。それよりひとつ上位の「Studio One Artist」も非対応で、どうしても VST プラグインを導入したい場合は追加機能として別途 VST 対応アドオンを購入する必要があります。

ちなみにクリプトン社 VOCALOID3or4 に付属の「Studio One Artist Piapro Edition」は、通常の「Artist」と同じく VST 非対応ですが、VST プラグインである「Piapro Studio」は例外的に特別に導入できるという制限をかけたものとなっています。

・Logic Pro、Garageband

Apple が開発したこれらの DAW は、同社による「AU (Audio Units)」という VST とは別の規格が採用されています。その働きとしては VST と同じです。

Mac ユーザーにとっては馴染みの深い DAW ですが、Windows ユーザーが Mac に移行してこれらの DAW を検討する際には注意が必要です。

・Pro Tools

文字通りプロの現場でよく使用されている DAW ですが、Pro Tools では現在「AAX」(Avid Audio eXtension) という、開発元の Avid 独自の規格が採用されています。

ですが、プラグインの中には「VST/AU/AAx 対応」のように、多くの DAW で使えるように複数種類の規格に対応しているものも珍しくありませんので、今回は Logic や Pro Tools をメインの DAW とする方からも何名か VST に対応したプラグインの紹介を頂いております。

余談ですが、「Blue Cat's PatchWork」(https://www.bluecataudio.com/Products/Product_PatchWork/) のような橋渡し用の特殊なプラグインを使うことで、AU のみ対応している DAW で VST プラグインを動かしたり、逆のこともやったりもできます。

VST プラグインをインストールする

VST プラグインを実際に DAW 上で使うためには、まずプラグインを PC にインストールする必要があります。やり方としては、以下の 3 つのパターンがあります。ここでは Windows の場合で説明していますが、Mac でも大まかなパターンは変わらないと思います。

方法 1：一般的なインストーラーでインストールする

メーカー製のパッケージ製品・ダウンロード製品や、フリーでも exe ファイルを使って配布しているものだとこのパターンです。通常のアプリと同じように PC にインストールします。インストール中が完了後に、シリアル番号などを使った認証が必要なこともあります。

方法 2：メーカー独自のインストーラーでインストールする

メーカー独自のインストーラーアプリをまず PC にインストールした後で、このアプリの中で個別プラグインのインストールや認証を行うというものです。プラグインを数多くリリースしているメーカーに多いパターンで、例としては、「Waves Central」(Waves)、「Native Access」(Native Instruments)、「XLN Online Installer」(XLN Audio) などがあります。

そのメーカー内のプラグインを多く導入している場合は、管理しやすいのがメリットです。

方法 3：圧縮ファイルを解凍して、dll ファイルを VST プラグイン用のフォルダに入れる

無料配布を行っている VST プラグインに多いパターンです。

zip などでは圧縮されたファイル形式でネットで配布されており、それをダウンロードして展開 (解凍) します。出てきた中身のうち「.dll」という拡張子のファイルが VST プラグインの「本体」となりますので、このファイルを適当な場所にコピーして入れておきます。一般的には、「方法 1」「方法 2」でインストールしたときにデフォルトで設定される VST プラグイン用のフォルダ内に、何か新しいフォルダを作って入れることが多いです。61 ページのミニコラム「VST プラグインの管理ってどうする？ (フォルダ分け編)」も参考にしてみてください。

本体はファイル 1 個なので、移行や複数 PC での作業環境構築などが楽にできます。

インストールが終了したら、DAW 内の設定を確認します。VST に対応している DAW の場合、オプション設定で VST プラグインを読み出すフォルダを指定できる項目があるはずですが、その項目を適切に設定しておけば、たいていは自動でそのフォルダの配下にあるプラグインの登録が行われ、DAW 内で使用できるようになります。うまく起動しない場合は、アクティベートが必要かどうか、指定フォルダに間違いなく .dll ファイルが入っているか、ビット数は整合性がとれているか、などを確認する必要があります。

1-2 VST プラグインの種類と概要

VST プラグインは、大きく 2 種類に分けられる

VST プラグインは、「音源」と「エフェクター」の 2 種類に大きく分類されます。

前者のことを「VSTi」(i は Instruments の頭文字)、後者のことを「VST エフェクター」(「VST エフェクト」「VSTe」、もしくは単にこれを指して「VST」と呼ぶこともあります) などと呼ぶことが多いです。本書のサブタイトルは『この VST(i) プラグインが熱い!』となっていますが、「VSTi」と「VST エフェクター」を両方取り上げていますよ、ということを示すためにこのような表記となっています。

それでは、この VSTi と VST エフェクターは、実際の曲作りにおいて具体的にどのようなシーンで活躍するものが多いのでしょうか。それを説明するにあたり、まずは『ボカロビギナーズ!』シリーズでもたびたび書いている、「曲ができるまでの制作工程」を見てみましょう。

工程 1：構成を考える

曲全体のテーマや展開、構成、楽器などを大まかに決めます。

工程 2：作曲&作詞

コード進行、およびコード進行から歌詞を載せるためのメロディを考えます。
また、そうして制作したメロディに載せる歌詞も形にしていきます。

工程 3：編曲・打ち込み

ピアノやギターなどの音源を打ち込んだり、実際に弾いたりして、曲を曲として成立させます。
本質的には「どのような楽器を使い」「それをどう打ち込むか」という決断の繰り返しです。

工程 4：ミックス

曲としてより自然に聴けるように、ボーカルや楽器間の音量などのバランスを調整します。

工程 5：マスタリング

ミックスによって調整した音源全体にエフェクターをかけ、最終仕上げを行います。

VST プラグインは、主にこのうちの「工程 3～5」で活躍します。最近はコード進行の提案など「工程 2」で役に立つものも少しずつ出始めてはいますが、本書で紹介しているものはほぼ全部「工程 3～5」で使えるものと言っても差し支えないかと思います。

VST プラグインのうち「VSTi」は、「工程 3」の編曲・打ち込みの場面で使用するもので、ドラムスやピアノ、ギター、シンセサイザーなどの文字通り音源 (Instruments) となるものです。

一方、VST エフェクターは、基本的には「工程 4」「工程 5」のミックスとマスタリングで役に立つものと考えてください。

ミックス・マスタリングは『ボカロビギナーズ』のほうでは考え方や概要を中心に説明して

1-3 本書の見方と活用方法

本書で寄稿対象とした VST プラグインについて

今回は、楽曲制作やミックス・マスタリングでご活躍をされている、総勢 33 名（+主催で合計 34 名）の方より VST プラグインのご紹介を頂きました。公募等は実施せず、印象的なサウンドを制作している方や、ブログや SNS でプラグインの話題を多くされている方を中心に、全員こちらから声をおかけした方となります。

主催である私アンメルツ P 自身が主にボカロ P として活動していますので、今回の参加者の方にもボカロ P の方が多いですが、ジャンルや普段使用している VOCALOID に関してはなるべく偏らないように心がけ、様々な方面のご意見を取り入れようとした次第です。

各参加者の方には、以下を基準にして VST プラグインを選出して頂いております。

「曲を完成・発表後から振り返ったときに、役に立ったと思うプラグインはどれ？」

「曲の制作過程でよく使う、自分自身が信頼のおけるプラグインは？」

プラグイン購入直後の使用感ではなく、実際に作品に使用したプラグインを後から振り返ったときに、役に立ったと思うもの——それを紹介しているのが、本書の最大の特徴なのではないかと思います。

今回寄稿の対象としたのは、VST 形式（VST3 を含む）に対応しているプラグインです。AU や RTAS のみにしか対応していないものは対象外となります。

前述の通り、音源（VSTi）とエフェクターの両方が対象です。また音源に関しては、「VSTi 上で使える音源ライブラリ」も対象としました。

音源ライブラリとは何かを VOCALOID になぞらえて説明しますと、『Piapro Studio (VSTi)』上で使える『初音ミク（音源ライブラリ）』に相当するものです。本書においては、ソフトウェア・サンプラーの「KONTAKT（84 ページ）」上で使える音源ライブラリが多く集まりました。KONTAKT 自体は有料ですが、無料配布の「KONTAKT PLAYER」（<https://www.native-instruments.com/jp/products/komplete/samplers/kontakt-5-player/>）上でも一部を除いた多くの音源ライブラリを読み込んで動かすことができます。

参加者の方には、お一人あたり 3 個～ 10 個のプラグインのレビューをお願いしました（主催は主催権限により 20 個書きました）。その結果、全部で 177 種類の VST プラグインの名前が上がりました。内訳は VSTi が 75 種類、VST エフェクターが 102 種類です。今回はプラグイン等に被りがあっても調整せず、単純に複数人のおすすめとして紹介しました。複数の方が推しているプラグインは、それだけ信頼度が高いという証になるかと思えます。

無料配布・シェアウェア・パッケージ製品など、配布・販売形式は問いませんが、今回は参加者の方に、ある程度無料配布のものも紹介して頂くように呼びかけています。52 種類

の無料配布プラグインを取り上げておりますので、本書を読んだあとぜひお気軽にお試ください（お約束ですが、無料配布のプラグインに関しては個人が配布しているものも多く、サポートが保証されていないものもありますので、自己責任でお願いします）。

また、せっかく挙げて頂いたのに読者の方が試せないのであれば意味が無いので、今回は「寄稿時点でオフィシャルな手段で入手可能なもの」を挙げて頂きました。無料配布のものであっても、配布元が閉鎖していてミラーサイトでしか配布していないケースは今回対象外となっています。

本書の見方

本書は、プラグインの概要紹介の下に、プラグインの紹介者のレビューと具体的に使用した作品の紹介を記載しています。複数人が紹介している場合は、さらに別の紹介者のレビューと作品紹介がぶら下がる形です。プラグインによっては、スクリーンショットを掲載していますので、外観や雰囲気などが確認できるかと思えます。

KORG Legacy Collection M1

 3  4,980円  64bit/32bit両対応

 http://www.korg.com/jp/products/software/korg_legacy_collection/page_4.php

 KORG

こちらがプラグインの概要紹介の例です。

1行目の「」のあとに提示しているのが、プラグイン名です。

2行目は「 3」がこのプラグインを紹介した人数で、「 3」とあれば3人が推していることになり、3人分の紹介文がこのあとに順次載っています。

その右にあるのがプラグイン単体での販売価格です。無料の場合は「無料配布」と明記しています。価格は2017年6月中旬～下旬ごろにかけて調査したもので、公式サイトもしくは代理店のサイトに提示のあった標準価格（税込）を記載しています。

ただし一部のプラグイン（Waves等）に関しては、代理店サイトで調査期間中常に「特別価格」が示されていたため、その「特別価格」が実質的にほとんどの場合ユーザーが買う価格だろうと判断し、その価格を「(特別価格)」と但し書きをつけて記載しています。

通販サイトなどでは、標準価格よりも少し安く売られているかもしれません。また、バンドル（いくつかのプラグインを集めたセット）に収録されている場合は、バンドルを買ったほうが結果的に安い買い物をするにつながる場合もあります。本書では、Native Instruments「KOMLETE」シリーズや、Wavesのバンドル（例：Waves GOLD）などの著名なバンドルに収録されている場合はその情報を1行目のプラグイン名の右側に示しています。

価格のさらに右側にあるのが対応ビット数です。昔のプラグインの場合、32bit版のDAWにしか対応していないことがありますので、気をつける必要があります。

3行目には、公式サイトもしくは代理店サイトのURLを掲載しました。

4行目はメーカー名もしくは作者名です。プラグイン名および作者名の表記は参加者から頂いた情報に加え、公式サイト・代理店サイトなどの記載も参考にしています。

■ピアノ音源

🎹 Addictive Keys

👍 2 📄 89.95 ドル～ 🖨 64bit/32bit両対応

🔗 <https://www.xlnaudio.com/addictivekeys>

👤 XLN Audio



💬 **regulus** 🖨 Windows 10 / SONAR Platinum

「Addictive Drums」(27 ページ) で有名な XLN Audio 社のピアノ音源です。
ライブラリ1つあたり約 90 ドルで購入できます。

ピアノ音源というのは世に数え切れないほど存在しますが、その中でひとつの音源を選ぶというのは難しいことです。音が良いというのはある意味当然のことで、それに加えた利点が求められます。そういう意味でこの音源は動作が非常に軽く、音色の選びやすさや作りやすさなどの扱いやすさが際立っています。必要だと思ふライブラリを買えばいいのでコストも抑えられます。

🎵 Smolder (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm28888377>)

全編に渡ってこの音源を使っています。アップライトピアノのライブラリはあらゆるジャンルに使えると思うのでまずはこれを買ってみることを勧めます。

🎵 Beautiful Lie (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm29855365>)

この曲のようなダンスミュージックにも合わせることができる汎用性の高い音をしています。他社のピアノ音源と比べると音の芯が太いように感じます。



💬 **虹原ぺぺろん (OzaShin)** 🖨 Windows 7 Ultimate 64bit / Cubase 9

ピアノ音源は数多くあるものの、リアル路線のものが多く、ダンス・ミュージックなどではかえって重厚すぎるという場面が少なくありません。

「Addictive Keys」の質感は、他のピアノ音源に比べると少し硬い印象がする音なのですが、打ち込み系の音楽で使用すると驚くほどびったりはまります。意外にもこういった質感のピアノ音源は少なく、価格もそこまで高くないので、他にピアノ音源を持っている方も持っておいて損はないと思います。動作が軽く、手軽に使用できるのもとてもいいです。

🎵 エト・セトラ (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm24446662>)

イントロの特徴的なフレーズやバックギンまで、全て Addictive Keys を使用しています。「House Keys」というプリセットのハイパスフィルターやコンプレッサーの設定などを変更し、より硬質な雰囲気仕上げています。2013 年くらいの楽曲では、Addictive Keys を使用している曲が多いです。

🎵 サウダージ (氷山キヨテルカバー) (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm24239771>)

ピアノに重きを置いたキレの良いアレンジを目指しました。こちらも低音をカットし軽快な雰囲気サウンド仕上げています。ペダルは使用せず、パラディドル風のバックギンです。

TruePianos

👍 2 🏷️ 14,080円 🖨️ 64bit/32bit両対応

🔗 <http://www.truepianos.com/>

👤 4Front Technologies



🗨️ kotaro 🖨️ Windows 10 Pro / SONAR Platinum

サンプルと物理モデルを組み合わせたタイプのピアノ音源です。

「SONAR Platinum」に機能限定版がバンドルされていますが、ちょっとカバーできるサウンドの幅に物足りなさを感じてフル版にアップグレードしました。バンドル版だと、「ロックやポップスのバックギンに使えるかな」という系統のサウンドですが、フル版だと弾き語りやクラシック系でも使えるサウンドだと思います。

♪ 千島桜 (<https://soundcloud.com/kotaro/chishimazakura>)

イントロのフレーズから全編で使用しています。SONAR Platinum にバンドルされるのはこのサウンドモジュールです。この曲は全体的に納得度が高く、リアル友人知人から代表曲として扱われることも多い曲です。

♪ One More Romance (<https://soundcloud.com/kotaro/one-more-romance>)

こちらも全編で使用。曲に混ぜるとわかりづらいかもしれませんが、フル版に含まれる方のサウンドモジュールを利用しています。おばあさんが「人生がもう一度あっても、あなたと一緒にいたい」と歌うのに、イントロが『First Love』っぽいのはご愛敬。



🗨️ ちょむP 🖨️ Windows 10 / Studio One 3

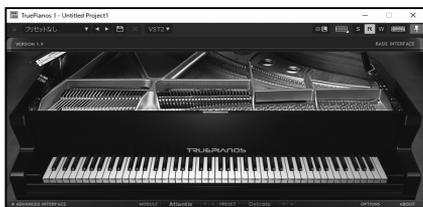
ピアノ音源。サンプリングと物理モデリングのハイブリッドで、起動が速くメモリも食わず、音階の不自然な境目もない上で十分自然な音出。

音量が大きいのも特徴で、自然に前に出るのでミックスもしやすい。

「SONAR」に標準でついてくるVSTだったが、あまりに使い勝手が良いので筆者はフルバージョンを購入し他 DAW でも使用している。

♪ ルーレット (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm30503930>)

ジャジーな雰囲気を持ったナンバー。ピアノはもっぱらバックギンで特に大活躍しているというものでないですが、音色が比較的わかりやすいのでこの曲を選びました。



▲ TruePianos (画像提供: kotaro)



▲ TruePianos (画像提供: ちょむ P)

■エレクトリック・ピアノ音源

🎹 Lounge Lizard EP-4

👍 2 🏷️ 25,920円 📦 64bit/32bit両対応

🌐 <http://www.minet.jp/brand/aas/lounge-lizard-ep-4/>

👤 Applied Acoustics Systems



🗨️ Dios/シグナルP 📦 Windows 10 Pro / Cubase Pro 9, Pro Tools HD 12.7

サンプリング音源ではなく、各物質のふるまい方とその共振現象を解析・再現するフィジカル・モデリング音源です。

各社からリアルなエレピ音源は多数出ていますが、いまいち曲にフィットしない時に、もうちょっとアタック感がほしいとか、高音成分の共鳴が欲しいとか、そういった微妙な調整が可能です。インストール容量もたったの120MBというのも助かります。

🎵 アトランティスのフタリ (<https://youtu.be/e32Bb9yK1-Y>)

リンレンのデュエットソングです。

Rhodes Mark II 風の音を曲に合わせて調整しています。



🗨️ KTG/チーターガールP 📦 Windows 10 / Cubase 8

エレクトリックピアノの物理モデリング音源。

PCM音源のエレピにはあんまり感じない打鍵感があって弾いて気持ちいい。

弱く弾いても音量が小さくなりすぎない、強く打鍵した時の音が割れそうになる実機のような感じちゃんと再現されており、演奏のテンションをそのまま表現力に繋げることが出来ます。

とは言え、実機のような電気的な劣化が無いのでローファイかつ存在感があるエレピを求めているならちゃんとミックスを追い込む必要があります。

とにかくウーリッツァーの音が最高。

🎵 アオイロライト (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm21438318>)

デジタル楽器の持つ疾走感を求めつつ、あまりデジタルになり過ぎないようにエレピでウォームな部分を補いました。

カッコリしたベースとぼんやりしたエレピのコンビネーションでリズムを作っています。



▲ Lounge Lizard EP-4

(画像提供: KTG/チーターガールP)



▲ Accordions (画像提供: nyanyannya)

■アコーディオン音源

📊 Accordions

👍 2 📷 17,722円～ 🖨 64bit/32bit両対応 (Windows) / 64bitのみ (Mac)

🔗 <http://www.crypton.co.jp/mp/do/prod?id=32640>

👤 Best Service



🗨 nyanyannya 🖨 Windows 7 / Cubase 6

アコーディオン系の音源です。「KONTAKT」対応。コンサティーナからバンドネオンまで入っているので頼れる。かなり素直な出音(丁寧な録音)はメリットでもありますが、表現的にもっとDレンジがあるといいかなと思います。DAWのオートメーションやダイナミクス系のエフェクトと併せてつかうとよいかもかもしれません。

🎵 エル・タンゴ・エゴイスタ (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm30395468>)

タンゴです。バンドネオンで使用。バイオリンとのユニゾンのシーンが多いですが、2回のインターで確認できます。デュレーションを切りめで使うとそれっぽいかも。

🎵 シスター=セクトルージュ (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm28113401>)

スウィングのラテンジャズです。インターのソロで使用。スタッカートの方が難しい。



🗨 きくお 🖨 Windows 10 64bit / Studio One

アコーディオンの音源はこれを使っています。
自分はこれに同梱されているバンドネオンばかりを使っています。
まさにアコーディオンの音源としてまったく申し分ない決定版です。

🎵 光よ (<https://www.youtube.com/watch?v=SqaVWWMaRxY>)

<<ミニコラム「VST プラグインの買い方(決済編)」>>

パッケージ版があるプラグイン以外はクレジットカードの所持が前提となります。ヨドバシのゴールドポイントカードや楽天カードなら審査もそれほど難しくなく、その後の通販にも便利です。18歳未満・高校生以下は親に決済を頼むか代理店のパッケージ製品を買いましょう。

クレジットカード情報を直接相手に渡すよりは安全な「Paypal」も、日本国内においてはクレジットカードの所持がアカウントの活用には必要な条件です。ただPaypalは若干為替レートが不利に設定されている印象があります。海外産プラグイン購入の際は安さと安全どちらを重視するかを考えましょう。

パッケージ製品の場合、公式や代理店サイトよりもAmazonや楽天などショッピングサイトのほうが安い場合もあります。Google Chromeの拡張機能「auto price checker」のような価格比較ツールを使い、ポイント分や送料も考えてどこから買うかを選ぶことが大事です。

📊 SynthMaster

👍 1 🏷️ 10,940円 🖥️ 64bit/32bit両対応

🔗 <http://sonicwire.com/product/98362>

👤 KV331



💬 KTG / チーターガールP 🖥️ Windows 10 / Cubase 8

コスパ最強の全方位型万能シンセサイザー。

正直、前年代的な GUI のせいでパッとしない印象ですが、実際の音と搭載機能を考慮すると "Master" の名を冠するに値するプラグインであることが分かります。

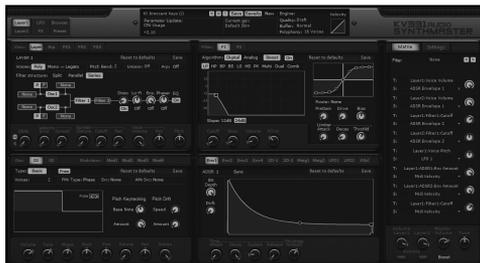
多彩な合成方式により、EDM 系の新しめの音から、ちょっと変わった音や昔のシンセサイザーみたいなレトロ音まで幅広く鳴らせます。

プリセットは昔の PCM 音源系プラグインを思わせるぐらい軒並みリリースが長かったり、空間系 FX がどっぷりなパッチが多いので、自分の曲に合うようにトリートメントしましょう。

🎵 鳥になって KTG Reservoir Mix (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm28215897>)

シンセつぼく鳴ってる音はほとんど原曲の音なのですが、新たに加えるシンセの音には原曲の持つ繊細な音の空間に馴染むと同時に、埋もれない音というバランスが必要でした。

SynthMaster はいろんな鳴り方を試せるので音を加える理由を考えるのが楽です。



▲ SynthMaster (画像提供: KTG / チーターガール P)



▲ Z3TA+2 (画像: アンメルツ P)

📊 Z3TA+ 2

👍 1 🏷️ 99 ドル 🖥️ 64bit/32bit両対応

🔗 <https://www.cakewalk.com/products/z3ta/>

👤 Cakewalk



💬 アンメルツP 🖥️ Windows 10 Pro / SONAR Platinum

メインのシンセサイザーとして最近は「Omnisphere 2」(22 ページ) を選ぶことが多いのですが、SONAR に付属していることで知られるこのソフトシンセは、特にユーロビートやトランスなどに使えるアタックが強くてきらびやかなシンセリード音に強みを持ち、なかなか替えが効かない存在です。

いじることができるパラメータは大変多いものの操作系が比較的整理されている印象があり、「もっといい音にするためにプリセットをいじってみよう」というやる気を出してくれるインターフェースであるように思います。

6基あるオシレーターをオクターブ違い、微妙にピッチずらして重ねていくことで、どんどん濃厚になっていく音を確認できて音作りが楽しくなってきます。

豊富なパターンのアルペジエーター、効きの良いシンセ内エフェクターも便利です。

♪ Endless Nightmare (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm29706909>)

samfree 氏をリスペクトしたユーロビート調の楽曲。

メインのシンセサイザーおよびシンセベースに「Z3TA+2」を使用しています。左側で鳴っている裏打ちの音は「Massive」、パッドとバックのシンセは「Omnisphere 2」をそれぞれ使用。

♪ みくみく動画五年祭 (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm18757396>)

10日間ほどで勢いで制作した、いわゆる「組曲『ニコニコ動画』」風のノンストップメドレー。7台ほどの「Z3TA+」（初代）でメインフレーズやベース、アルペジオやバックを奏でています。音についてはプリセットをほぼそのまま使用していますので、たぶん分かる人にはとくに音源がバレていることでしょう。

📊 RAZOR ※KOMLETE11 ULTIMATEに収録

👍 1 🏷️ 12,800円 🖥️ 64bit/32bit両対応 (Windows) / 64bitのみ (Mac)

🔗 <https://www.native-instruments.com/jp/products/komplete/synths/razor/>

👤 Native Instruments



💬 chiepomme 🖥️ Windows 10 / REAPER

アナログのキラキラ感ではなく、FMのキラキラ感でもない、そんなシンセ系のキラキラした音を探している方におすすめの加算合成シンセサイザーです。KOMLETEに収録されていますが、REAKTORの中に入っているので気づかない方もいらっしゃると思います。

どのプリセットを鳴らしても、独特な瑞々しさを感じる音色で、他のシンセの音とレイヤーすると途端に厚みあるキラキラした雰囲気になります。使うときは単独というより何かにレイヤーして華やかにする時に使っています。最初のハマリポイントとして、音がならないときはまず入力チャンネルを1にしてみてください。「SERUM」（73ページ）などの最近のシンセと同じくらい負荷がかかるので、その点もお気をつけを。

♪ twin stars (<http://store.chiepom.me/track/twin-stars>)

この作品のシンセ系は全て「RAZOR」を使っています。古い曲なので効果的な使い方はできていないのですが、音色の雰囲気は伝わっています。



▲ RAZOR (画像提供: chiepomme)

■コンプレッサー

📊 DensitymkIII

👍 1 📄 無料配布 🖥️ 32bitのみ

🔗 <https://varietyofsound.wordpress.com/downloads/>

👤 Variety Of Sound



💬 連投P 🖥️ Windows 10 / Cubase Artist 7.0.7 (64bit)

M/S 処理と DRY/WET とサイドチェインに対応のコンプ。

基本はドライブとメイクアップで調整します。フリーしか使っていなかった頃、よく使っていました。

M/S 処理まで出来るものはフリーだとあんまりない気がするのと、プリセットも多いのがとても助かります。リミッターとして使う事も出来ます。



▲ DensitymkIII (画像: アンメルツ P)

📊 OTT - Multiband compressor

👍 1 📄 無料配布 🖥️ 64bit/32bit両対応

🔗 <https://xferrecords.com/freeware/>

👤 Xfer Records



💬 PLAMA 🖥️ Windows 7 64bit / FL Studio 12.4

「SERUM」(73 ページ) と同じ会社である Xfer が無料で配布しているマルチバンドコンプレッサーエフェクトです。

SERUM を使ったことがある方ならご存知の通り、SERUM のコンプレッサーエフェクトは使いやすい部類です。感覚としては、そのコンプレッサーエフェクトを抜き出して VST にしたものだと思ってもらって差し支えありません。適当に繋いでパラメータをいじるだけで、いかにも EDM な音処理が出来ます。パラメータも少ないので、正直コンプレッサーの詳しい使い方を知らないという方でも使いやすいです。

ただし、デフォルトでかなりドンシャリな音に様変わりするので、用途は広い方ではありません。また、パラメータも大味な部分があるので、ミリ単位で自分好みに調整するような細かい用途、特にマスタリングには不向きだと思います。とはいえ無料にしては破格の性能を持っていると思います。シンセのお供に。



▲ OTT - Multiband compressor (画像提供: PLAMA)

♪ Hold Me Tight (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm31108835>)

僕もこのプラグインを入れて日が浅いので、最近の曲が特に使用率が高いです。Drop 部分のリードシンセの処理に使っています。この曲は強いメロディが主軸なので、その破壊力を上げるためにこのプラグインを差し込んでいます。かなりドンシャリしてると思います。

🎵 Rough Rider

👍 3 📺 無料配布 🖨 64bit/32bit両対応

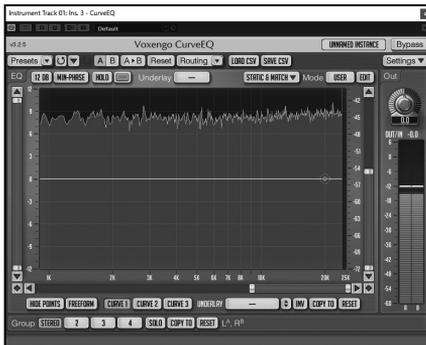
🔗 <https://www.audiodamage.com/pages/free-downloads>

👤 Audio Damage

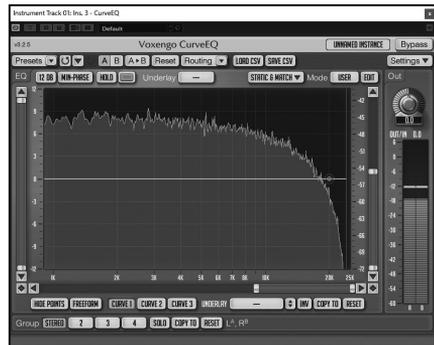


🗨 狐夢想 (ムスカP) 🖨 Windows 10 / Cubase 7.5

パツンパツンのプリプリな音が出せるコンプ。先ごろ (2017年6月) Ver.2 が発表されたけど、長年使い続けている Ver. 1 をご紹介。インサートするだけで凄まじい勢いでハイカットされる。なのでまずはベースに良し!



▲上までキレイに出ているホワイトノイズが……
(画像提供: 狐夢想 (ムスカP))



▲ハイッ! この通り!
(画像提供: 狐夢想 (ムスカP))

中域が前に張り出し、アタックも強く出せるのでヴォーカルやドラムステムにも使える。古めのロックを作っててシャリシャリの高域が邪魔だなーって思った時は出番だ!

MAKEUP (アウトゲイン) を上げるとバリバリに割れるけどリミッターも兼ねているので安心。むしろ意図的に歪ませて使うと楽しい! 海苔どころか日高産昆布みたいな波形になるぞ!

ツマミは粗く段階的にカチカチと変化するので「その中間が欲しいんだよ〜!」と思うこともあるけど「知らんがな!」という制作者の意気込みを感じる。

キレイなコンプに飽きたらとりあえず取っつけ!

あと僕はパツンパツンのコンプと言うとレンくんにはスパッツはかせた姿を想像するよ! なんてだろう!?



▲ Rough Rider (画像提供: 狐夢想 (ムスカP))



🗨️ **Mitchie M** 🖥️ OS X Yosemite v10.10.5 / Logic Pro 10.2.4

ガッツのある太いコンプサウンドが得られます。ただし音を通すと高域が落ちるので、ハイファイな素材をコンプするには向いていません。どちらかという、ヒップホップで聴かれるような、少しローファイ気味なキックやスネアに合いそうなサウンドです。



🗨️ **Torero** 🖥️ Windows 7 64bit / ACID Music Studio 9.0

普段 MIX してて、どうしても楽器が多すぎてキックが埋もれてしまう僕にとって、このコンプはマジで革命的にキックを前に出してくれるので、神 VST として紹介しておきます！とにかく音が分厚くなる (確信)

とりあえず目立たせたいトラックに挿してる感じですが、逆に言うと前に出すすぎてしまうので使い所が難しい…僕はとりあえずキックとメインボーカルにかけてたりします！

🎵 **C.H.O.I.C.E** (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm30943233>)

歌って踊れる KAWAII DRUM'N'BASS です (大嘘)

とりあえず聞いて頂ければキックがすげえ前に出てるな！? って感じて頂けると思います、とりあえずグルーヴの要はビート! ガンガンビートを効かせていきましょう (?)

📊 **TDR Kotelnikov**

👍 **1** 📺 **無料配布** 🖥️ **64bit/32bit両対応**

🔗 <http://www.tokyodawn.net/tdr-kotelnikov/>

👤 Tokyo Dawn Labs



🗨️ **クリスタル P** 🖥️ Windows 7 64bit / Cubase 9, Cubase 7.5, Studio One 2.5

他にも紹介されてる方居るかもしれませんが、まずはこちらのコンプは "とりあえず黙って入れておけ" 系としておススメです。

動作が軽い・遅延が少ない・音がいい・UI が明快で判りやすい・プリセットがある・なにより無料っていう (笑)、と、フリー VST の鑑みたいな存在です。

使用方法としては、各トラックに挿してもいいですが、昨今の DAW は既にトラックで EQ とコンプは標準的に装備されていたりするので、あまり挿す意味は無いと思います。(積極的に音を作るコンプではないので)

そういった意味では最終のマスターチャンネルで、どうしても全体の音量が上がってしまう場合や、一瞬だけ Clip してしまうのを抑える場合など、トラックダウンを書き出すときにこそ効果を実感できるかと思います。

あとステレオで範囲指定 (多分) できるので、真ん中付近の音だけにかけたいとか、左右全体に幅広くかけたいとか出来るのも有り難いです。



▲ TDR Kotelnikov (画像提供: クリスタル P)

♪ キッドの『歌ってみた』これくしょん! 2+ (<http://yaplog.jp/kidsworks/archive/98>)

執筆時点での自分の手がけた最新作ということでキッド作品を紹介します (笑)

こちらでは、各楽曲は M/S でトラックダウンを書き出していますが、その際のマスターでこのコンプを通っています。デフォルトだと大抵 RATIO が 2.0 : 1 だったりしますが、それをあえて 1.5 : 1 程度にして THRESHOLD を深めています。

曲によって多少数値は変わってきますが、めいっばい音が鳴っている状態で GAIN-1 から -5 程度あたりまでの範囲内で収まるように調整しています。

 **V-Comp** ※Waves Gold以上のバンドルに収録

👍 1 📺 3,180円 (特価) 🖨 64bit/32bit両対応

🔗 <http://www.minet.jp/brand/waves/v-comp/>

👤 Waves



💬 **mint*(薄荷キャンディP)** 🖨 MacOS Sierra 10.12.5 / Logic Pro X

ディスクリートコンプレッサーの名器、Neve 2254 をモデリングしたプラグインになります。この Neve 2254 はモデルチェンジを経て、現在でもダイナミクス系機材の代表的機種となっているようです。

お気に入りの「V-Comp」を紹介するにあたり、まず特筆すべきは圧縮感が強くパンチの効いた個性向きだしの出音です。「ロックやろうぜ! おい!」と聞こえてきそうなくらいワイルドなサウンドキャラクターで、音がまとまり1つの太い固まりになって出てくる質感がとても強いです。

僕はベース、キック、キック以外のドラムスをまとめたバストラックに使い、キャラクターとダイナミクスの統一感を出します。Input は -20 付近で設定するのがポイント。

ちなみに個人的に気に入っている Analog スイッチなのですが、0 から 100% へほとんどダイヤルを回していくと、実際のアナログ機材に音を通した時のような倍音歪みと、サーツという微かなノイズが付加されていきます。とっても楽しい! (笑)



▲ V-Comp (画像: アンメルツP)

♪ 365 日繰り返した恋文のように (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm31323228>)

BPM210 という速さの壁の前に、ギターを弾く指が千切れそうになった。そんな1曲。

ワイルドなドラムは V-Comp のおかげ。

 **Renaissance Vox** ※Waves Platinum以上がRenaissance Maxxバンドルに収録

👍 2 📺 3,180円 (特価) 🖨 64bit/32bit両対応

🔗 <http://www.minet.jp/brand/waves/renaissance-vox/>

👤 Waves

AmpliTube

👍 1 🏷️ 149.99ユーロ 🖥️ 64bitのみ (Amplitude4)

🔗 <http://www.ikmultimedia.com/jp/products/amplitude4/>

👤 IK Multimedia



🗨️ テラ小室P 🖥️ Windows 10 / Ableton Live 9.7

ギター用エフェクター、アンプシミュレーターであり、現在は「AmpliTube 4」が現行のものとなっている。

プリセットも多く、自分が使いたいサウンドのイメージから探していける。

アンプシミュレーターでは、アンプの種類、マイクの種類、本数や場所などのセッティングもでき、エフェクター部分ではおなじみのコンパクトエフェクター、ラックのエフェクターも多いので、触って違いを確認してほしい。

🎵 The last light (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm13102038>)

右で鳴っているトレモロ系のエフェクトとコーラスを含んだプリセットをエディットして使用している。歪み系だけではなく、クリーン系のギターにもこういったアンプを使って空気感を持たせることができる。

🎵 leave for me (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm17561371>)

全編を通して左のディストーションギター、右のクリーンギターに使用。かなり長い間愛用していたので、かなりの曲数で使用している所以他の曲も聞いてみるのも良いかもしれない。

Guitar Rig ※KOMLETEE11に収録

👍 1 🏷️ 24,800円 🖥️ 64bit/32bit両対応 (Windows) / 64bitのみ (Mac)

🔗 <https://www.native-instruments.com/jp/products/komplete/guitar/guitar-rig-5-pro/>

👤 Native Instruments



🗨️ cosMo@暴走P 🖥️ Windows 7 64bit / SONAR 8.5

とにかくプリセットの多さにつきます。大体のニュアンスのギターの音はこれさえあれば表現できる気さえしています。しいていえばクリーン系には少し弱いかなあという気がするんですが、ギター弾きたいけど弾けない!けど、とにかく曲にギターを取り入れたい!目いっぱい歪ませたい!というハードロック・ヘヴィメタル好き勢にはお勧めしたいです。

🎵 For UltraPlayers (<https://www.youtube.com/watch?v=vwFaMjHIL5U>)

BEMANI シリーズの音楽ゲーム『SOUND VOLTEX』に収録されている楽曲です。ギター的な音はすべてこちらの音源を使用しております。他のアンプシミュレータを使ったことがないので、比較はできませんが、ここで紹介する Guitar Rig + RealLPC (45 ページ) で cosMo サウンド的なロックはほぼ表現できますので、cosMo 的なギターサウンドの打ち込みがしたいという奇特な方がいらっしゃいましたら使用してみたいはいかがでしょうか。



▲ AmpliTube (画像：アンメルツP)



▲ Guitar Rig (画像提供：cosMo@暴走P)

■ サチュレーター

📊 Saturation Knob

👍 1 📺 無料配布 🖥️ 64bit/32bit両対応

🔗 <https://www.mi7.co.jp/products/softube/satknob/>

👤 Softube



💬 空海月 🖥️ macOS Sierra / Logic Pro X

「Saturation Knob」は低中高域のどれかを狙って歪み成分を足すことにより、その帯域での存在感を上げてくれるプラグインですが、簡単操作で使いやすく、得られる効果も抜群にいいという素晴らしい代物です！

埋もれてしまったヴォーカルやメインリフのピアノをボリュームを上げずに前に出したい・・・そんな時に挿すと急にきらびやかに鳴ってくれるようになります。無料頒布してくれた Softube は本当に神です m(_ _)m



▲ Saturation Knob (画像提供：空海月)

🎵 Love is not forever (<http://www.nicovideo.jp/watch/sm27988217>)

ピアノの中域にサチュレーションを加えることで、柔らかい音色を保ちつつも Mix に埋もれないバランスに調整しています。

📊 Sausage Fattener

👍 2 📺 39 ドル 🖥️ 64bit/32bit両対応

🔗 <http://www.dadalife.com/sausage-fattener/>

👤 Dada Life



💬 Hizuru / mirgliP 🖥️ Windows 10 Pro / Cubase Pro 8

おどけた見た目で有名すぎるサチュレータープラグイン。倍音を付加して、音の存在感を増すのがサチュレーターですが、こいつは付加す